

I S S N - 1 3 4 0 - 7 3 6 8

(社)日本雪氷学会北海道支部機関誌

北海道の雪氷

第22号



2003年 9 月

発行 (社)日本雪氷学会北海道支部

目 次

巻頭言-----	1
2003 年度日本雪氷学会北海道支部研究発表会発表論文-----	2
2002 年度事業報告-----	65
2002 年度収支決算書-----	67
2003 年度事業計画案-----	68
2003 年度収支予算-----	70
2003 年度日本雪氷学会北海道支部役員名簿-----	71
日本雪氷学会と道内関係機関のホームページ-----	72
社団法人日本雪氷学会北海道支部規約-----	73

企業広告

表 紙

画 : 斎藤新一郎

題字 : 福沢卓也

巻 頭 言

支部幹事長 河村 俊行（北大低温科学研究所）

本年度から支部幹事長を仰せつかりました。私自身幹事としては10年以上前に会計幹事をさせていただいた以来です。さらに諸事情により私を含め庶務・会計両幹事とも同時に交代致しました。そのため、不慣れでご迷惑をお掛けすると存じますが、皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。ここまで、総会・研究発表会そして当機関紙の発行と、なんとかこなしてくることができました。感謝しております。

6月に開催された「支部研究発表会」では16件の講演が行われ、約100名の方が参加されました。参加者の内訳は大学・研究機関・コンサルタント中心の企業の方が2：1：1の割合でした。入れ替わり立ち代り多数の方々が熱心に聴講され、盛況のうちに無事事実上の初仕事を終了することができ、正直言って安心いたしました。そこで発表された論文は当冊子に掲載されております。

前号でも支部の切迫している財政事情について書かれておりましたが、うかつにも私自身その状況をよく把握しておりませんでした。このままでは支部の活動に支障がでてくることが懸念されます。その状況を少しでも打開するために、積極的に活動することにいたしました。具体的には本年度より当機関紙に広告を掲載することに致しました。是非ご覧ください。また当冊子に掲載された論文の別刷りを作成し、希望の著者の方々に購入していただくことにしました。皆様の研究活動をアピールするために積極的に利用していただければ、我々の喜びでもあります。さらに当機関紙を他支部会員や会員以外の方々や企業にも購入していただくよう積極的に努力するつもりです。以上の活動はまだ充分とはいえませんが、今後実績を重ねてゆく所存です。そのためには皆様のご協力が是非必要ですので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

皆様すでにお気づきかと存じますが、懸案であった支部のホームページを立ち上げることができました。これは前会計幹事の豊田威信会員らの尽力によるものです。アクセスされた方をご承知と思いますが、その充実振りは支部としても自慢できるものです。まだご覧になっておられない方は是非 <http://www.seppy.org/~hokkaido/> にアクセスしてください。しかし、ホームページの真価は内容の新しさにあると思いますので、常に更新する必要があります。これは我々に課せられた課題のひとつです。そのため新しい情報がございましたら、是非提供をお願い致します。そしてこのホームページが情報交換の場に有効に使われることを期待しております。

2003 年度日本雪氷学会北海道支部研究発表会発表論文 目次

日 時： 2003 年 6 月 26 日 (木) 10:30～15:45

場 所： 北海道大学 学術交流会館 第一会議室

1. オホーツク海沿岸域の海水の漂流メカニズム-----	3
猪上 淳 (オホーツク・ガリコタワー(株))	
2. アルゴスブイと流水レーダによるオホーツク海北海道沿岸の海水観測-----	7
館山一孝、白澤邦男、石川正雄、高塚徹、大坊孝春、豊田威信、猪上淳、高辻慎也、向井祐二、木村詞明 (北大低温研)、中山雅茂 (宇宙開発事業団)、直木和弘 (千葉大学)、下田春人 (海技研)、鈴木英一、杉本綾 (一管本部海洋情報部)、福田明 (静岡大学)	
3. 電気伝導度式氷厚計の開発-----	11
館山一孝、白澤邦男、石川正雄、高塚徹、大坊孝春 (北大低温研)、新井浩成 (道立工業試験場)、鈴木克典、榎本浩之、小嶋真輔 (北見工業大学)、洞口克彦 (DATT ジャパン)	
4. 積雪を考慮した床面のすべり特性と避難行動について その 1 -----	15
～床材料の濡れが歩行に及ぼす影響～	
相茶日出海 (北海道工業大学)、内藤恵 (㈱雪研スノーイーターズ)、細川和彦、苫米地司 (北海道工業大学)	
5. 積雪を考慮した床面のすべり特性と避難行動について その 2 -----	19
～積雪および床のすべりを考慮した避難時間の推定～	
内藤恵 (㈱雪研スノーイーターズ)、相茶日出海、細川和彦、苫米地司 (北海道工業大学)	
6. 並木の除雪による被害とその対策としての防雪杭の効果-----	21
斎藤新一郎 (環境林づくり研究所)、小泉重雄 (北海道開発局岩見沢道路事務所)	
7. 人工雪を用いた風洞実験による吹きだまり形成の再現-----	25
中静仁平、細川和彦 (北海道工業大学)、老川進 (清水建設)、苫米地司 (北海道工業大学)	
8. 雪粒子飛び出し風速と雪粒子結晶形-----	29
佐藤研吾、高橋修平 (北見工業大学)	
9. 積雪層構造予測数値シミュレーションの開発と利用について-----	33
齋藤佳彦、榎本浩之 (北見工業大学)	
10. 降雪遮断による酸素同位体比の変化-----	37
山崎学、宍戸真也、石井吉之、児玉裕二 (北大低温研)、橋本哲 (島根大学)	
11. 通風筒を使用しない気温測定に関する問題点と対策-----	41
高山拓也、高橋修平 (北見工業大学)	
12. 膨張収縮する材料を利用した着雪対策について-----	45
千葉隆弘、竹内政夫 (㈱)雪研スノーイーターズ)	
13. 橋梁の着雪・冠雪対策に関する研究-----	49
布施浩司、岳本秀人 (北海道開発土木研究所)	
14. 現地観測による吹き止め式防雪柵の防雪効果について-----	53
伊東靖彦、松澤勝、加治屋安彦 (北海道開発土木研究所)	
15. タクシーGPSデータを活用した札幌市における冬期交通特性分布-----	57
高橋尚人、宗広一徳、浅野基樹 (北海道開発土木研究所)	
16. 道路構造の違いと冬期路面温度との関係に関する一考察-----	61
宮本修司、高橋尚人、舟橋 誠、浅野基樹 (北海道開発土木研究所)	